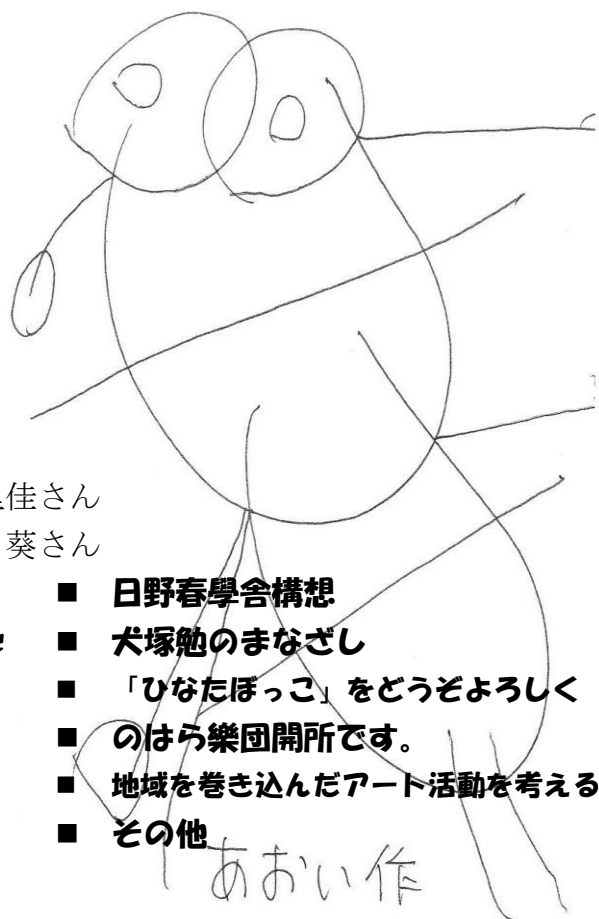
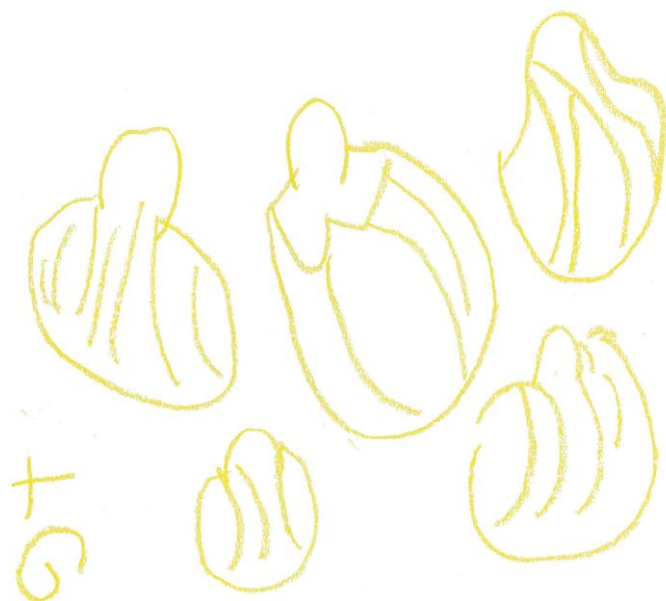
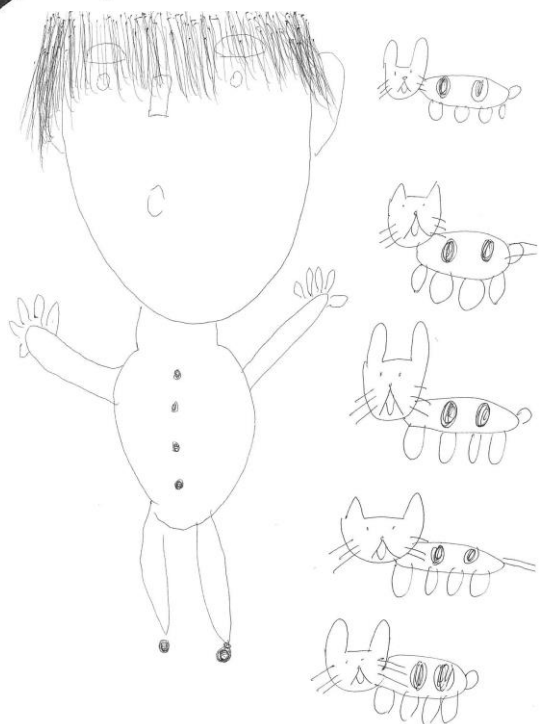


にじ 虹 い ん No. 11



リレー題字：牛田重昭さん 絵：三沢二郎さん 高取里佳さん
小林 淳さん 宮川 葵さん

特集

- 日野春學舎構想
- 犬塚勉のまなざし
- 「ひなたぼっこ」をどうぞよろしく
- のはら楽団開所です。
- 地域を巻き込んだアート活動を考える。
- その他

あおい作



『日野春學舎構想』について

社会福祉法人八ヶ岳名水会が

拠点となって推進する地域再生構想

日野春學舎構想事務長

窪川 敦之

当法人が日野春小学校跡地（以下…日野春學舎）をお借りできることになって早一年二ヶ月の月日が流れました。この間、体育館や校舎等を活用して法人創立二十周年記念行事をはじめとした様々なイベントを開催させていただくとともに、事務所や支援センター等の事業活動の拠点として活用させていただいてきました。また地域の資源として、地元と共有、協力して活動展開がなされるように、地元下条区の避難訓練や運動会はもちろん、渋沢区や富岡区の方々にもグラウンド等をご利用いただき、北杜市とも災害避難場所についての協定を結ばせていただいています。

しかし、これらは、当法人がこの場所で実現したかったことの一部に過ぎません。先の「虹いろ」でも触れさせていただいたように、地域に山積する諸課題を解決する一助になりたいという構想がこの先に控えています（この構想全体を「日野春學舎構想」と総称）。

この構想について日本財団の助成事業に応募したところ、内容の主旨をご評価いただいた助成決定をいただくことができ、私たちの目指した方向に間違いはなかったと、職員一同大いに力を得たところです。

当法人では、現在この構想を実現するための大きなステージとして日野春學舎を活用させていただくべく計画を進めています。以下にお名前を上げた各団体等は、この構想の計画初期段階からその実現のために必要不可欠な団体として当法人がピックアップし、ご協力をお願いしてきた方のうち主な団体の方々です（敬称略順不同）。

- 1) 「長坂下条地区里作り研究会」
- 2) 「八ヶ岳ふるさと倶楽部」
- 3) 「ひなたぼっこ」く不登校児支援く
- 4) 「美術制作及び展示」く日野春學舎構想アート部門関連く
- 5) 「犬塚勉のまなざし」く故犬塚勉氏の絵画作品展示く

当法人のみでは力不足で実現できないであろうことを、これまで当法人にご理解をいただき育てていただいた地元の方や、様々な分野において活躍されてきた多才な方々に集っていただき、ご協力を得ることで実現させ、さらに

大きな成果が生み出されるような相乗的な活動展開がなされていくことを期待しています。

そうして迎える平成二十六年十月、当法人の新規事業所として『のほら楽団』が開所し、日野春學舎で予定されている各団体の諸々の活動がようやく本格的にスタートします。この機に合わせ、十一月初旬にグラウンドオープンとして様々なイベントを企画しております（詳細は別項参照）。どうぞこの機会にお気軽にお越しいただき、私たちの活動の一端をご覧下さい。

ところで、この「日野春學舎」という名称ですが、日野春小学校跡地を活用させていただくにあたって相応しい名前を検討した結果、皆様に愛され親しまれた「日野春」という地名を継承するとともに、元は学校であったことを遺産として、皆で学び合いお互いに成長発展できる場所にできたらという思いを込めて「學舎（ガクシヤ）Ⅱまなびや」と付けさせていただきました。日野春學舎における活動の展開はまさにこれから。上記構想及び活動の意図を何卒お汲み取りいただき、今後も引き続きご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。





日野春小学校の歴史を
展示しているのを見に来て下さい。



「犬塚勉のまなざし」

犬塚 勉 展示室室長 犬塚 陽子

犬塚から「日野春」という地名を聞いたのは今から三十年も前のことだった。本格的登山を始め数年後には「日野春」から望むほとんどの山を登り尽くしていた。北岳には春夏秋冬さまざまなルートで登り、その手つかずの自然にたまらなく惹かれていた。山行の帰路立ち寄ったのが「日野春」。一九八六年のノートに「日野春の丘に居を構えたい」と書き遺している。どんな想いでこの丘に立ったのだろう。土埃の上がる校庭とその向こうに連なる山々を見上げ、胸の内で反問する。

犬塚は六歳の時に、家族とともに多摩丘陵の稲城村に移り住む。数々の不思議や謎に満ちた「自然」と対峙し、幼いながらも直感を働かせ難題に取り組んでいたに違いない。それは果てしない「美」の探求の始まりであり、彼の一生を貫く生き方を形成した。絵画制作においても登山においても、未知のものに直面すると自らの感性で解き明かそうと渾身の力を振り絞る。

絶筆となった「組み作」について、ずっと考え続けてきたことがある。作品の構想は「溪谷の水に足を浸けるときの期待と不安から、命懸けで沢を登り頂上へ至るまで」を表現することであつた。頂上部分の下絵には「生きかつ死に得る」「安らぐ」という言葉が小さな文字で書き込まれている。生死を分かつギリギリの所に身を置いた時に初めて見える世界と説明したきりであつた。

プレオープン開催中に犬塚と同様の瞬間を体感したという方のお話を伺うことができた。また、広島の方からは組み作をテーマにした詩文を頂戴した。「生きかつ死に得る」「安らぐ」世界とは、犬塚が生涯求めていた真実の世界なのかもしれないという思いに至った。

仕事を離れ、自然に向き合う時の犬塚はいつも穏やかで静かなまなざしだった。生い茂る草一本一本、命を終えようとする枯れ草をも慈しみ丹念に描く。どんなに小さな石ころにも丁寧な陰影をつけその存在を輝かせる。北岳山頂からの尾根道を描いた「縦走路」という作品がある。地を這うハイマツも空も

雲も石ころも全ての存在が等価であり、互いの命を認め合うことで世界が、宇宙が成り立っていることを直感させる。

「日野春」では、障がいのある無しにかかわらずすべての人が大切にされる社会を目指すグループの一員に加えていただいた。自己の利益を優先させ競い合う社会に生きながら、すべての存在が等価であるというまなざしを保持するのは容易なことではない。展示スペース「犬塚勉のまなざし」が作品を介し交流を深め合う場となり、新しい社会創造の一助となることを願ってやまない。



「ブナ」1988年 116.7×116.7

「ひなたぼっこ」を

ひなたぼっこ



不登校の子どものための居場所「ひなたぼっこ」です。この度ハケ岳名水会さまの「日野春ブリッジ構想」の繋がりの中に、「ひなたぼっこ」を加えて下さったことに心から感謝しています。

「ひなたぼっこ」は、学校に行くのがつらい、でも学校に行かないのもつらい、そういう子どもたち（親御さんも）が安心して過ごせる場所として5年前に長坂上条の民家をお借りして始めました。自分のペースで無理なく過ごせる場所、友達に会える場所、家族以外の大人と交流できる場所として毎週水曜日に開いています。何をするかは子どもたち自身が決めます。一人でもやるもよし、誰かと一緒にやるもよし、みんなでやることもあります。誰もが気持ちに無理なく楽しく過ごせることを一番大事にしています。



みんなで大縄！

学校生活の中で傷ついて、疲れて、何かをしようという意欲を失くしていた子どもたちも、「ひなたぼっこ」で仲間と出会い、ゆつくりと安心して過ごすうちに、子どもたちが本来持っているエネルギーが蘇り、動き出します。

子どもたちとはとても感性豊かです。「ものをつくる」ことに意欲と喜びを感じる子どもたちです。折り紙、きり絵、写真、小物、アクセサリー、イラスト、絵、粘土、様々な手段で感じたことを表現します。たくさん素敵な作品が生まれています。ここハケ岳南麓には木工・陶・ガラス・織りなど様々な分野の「ものをつくる」人たちが住んでおられますので、そういうプロの作家さんが教えて下さることもあり、子どもたちはいい経験をしています。また豊かな自然環境の中で、心と身体を解放します。草花を愛でたり、散策したり、釣りをしたり、山に登ったり、…

「勉強をしよう」という気持ちも自ずと湧いてきて、学習タイムも生まれました。毎週火曜日の午後は、それぞれが自分の課題を決め、熱心に学習に取り組んでいます。



子どもたちの作品

色々な思い出
がたくさん！

日向山への挑戦



白州へ釣りに…



焚火でバウムクーヘン作り



「ひなたぼっこ」はこんなところです。この秋からは、日野春學舎が「ひなたぼっこ」の活動の場所になります。名水会さまを始め、ここを活動場所とされる会のみなさま、地域の方々と交流しながら、子どもたちが元気にたくましく育ってくれることを願っています。「ひなたぼっこ」をどうぞよろしく願います。

「ひなたぼっこ」代表 西岡 美紀恵

ハケ岳名水会多機能型事業所

「のほら楽団」開所です

のほら楽団 サービス管理責任者

仁田坂 洋子

「春の陽」がこの日野春の地に産声をあげてから十三年が経ちます。春の陽のスタートは五名の利用者さんと、作業は養鶏と野菜作りでした。本当に何にもない草だらけの土地を耕して、畑にして、養鶏小屋を建てて、毎日収穫した野菜でみそ汁を作って・・・みんなと笑いながら太陽の下で、農業をやっていた日々を思い出します。少しずつ利用する人も増え、障害も身体的、精神的、発達と多岐にわたり、あおぞら（知的障害者デイサービス）、豆の花（就労事業所）、菜の花（身体障害者が多い生活介護）と施設とサービスも増えていきました。現在はここで約九十名の方が利用されています。そのニーズは、支援学校卒業後の進路として、就労へ向けた訓練の場として、病院を退院した後のリハビリとして、働く場として、仲間と交流する場として、充実した生活を作るために、必要とされています。今後も利用する方が増え

ていくと思います。

7年前にできた菜の花の新設は、車椅子や高齢で利用する環境が必要な方たちへのニーズに合わせて整備されていきました。そして現在、春の陽は定員四十名のところ六十名の利用になり、このたび、四十名の「春の陽」と二十名の「のほら楽団」へ分かれることになりました。昨年幸いにして、日野春小学校の校舎を借りることができました。これはひとえに、地域の皆様の理解と協力があつてのことと、本当に感謝いたします。

「のほら楽団」の「のほら」は日野春の旧地名「ひのほら」からとりました。楽団は、音楽を奏でるという意味合いがありますが、ここでは、「楽しい」ことをする、わくわくする活動を行う意味を採りました。みんながこれいいね！と喜んでくれるような商品を作る、そんな時間を仲間と共に過ごせる施設を作りたいからです。ここでは、「春の陽」で生産された材料、野菜や卵、穀物を使って、パンや菓子、ソースや味噌、豆腐などの食品加工を行い、それをみなさまへ販売していく仕事を行います。農産物を使わずに、日本の伝統的な循環農業と、品物ひとつ一つを

大事にした製品作りを行っています。 「障害者」という言葉には、特別な感じを持たれる場合があります。それは自分たちと違うとか、「障害者」って分からない、知らない人たちだし・・・ということから来ているのだと思います。私たちは、障害を持っている人たちが働くという形で、この地域を支える一員になり、交流する機会を通じて、「障害者」ではなく「〇〇さん」と名前前で呼んでもらえる関係を作り、障壁の無い、社会的包摂を目指す地域づくりのお手伝いをしていきたいと思っています。これからも、「のほら楽団」をよろしくお願いいたします。



北杜市白倉政司市長を迎えての開所式

地域を巻き込んだ

アート活動を考える

八月八日、九日と日野春學舎構想アート企画部門研修として、滋賀県で行われた障害者芸術活動を通じた共生社会づくり事業の実行委員会への参加とボードレス・アートミュージアム「NO—MA」の見学に行ってきました。

実行委員会では、障害者アートの映像作成に関する話し合いが進むなか、



様々な素晴らしい作品をみることでできました。今回拝見した作品は、海外の展示会にも出展されたもので、それぞれの作家の個性が光るものばかりでした。

自分を表現するためであったり、その人独自のこだわり行動により作られた作品は、作家の生き方そのものでありその価値を私たち支援者が保障していかねければならないと思いました。八ヶ岳名水会でも、日中の活動の合間に、多くの利用者から、さまざまな形の作品が生まれています。それをアートとして社会に発信していけるのか、いつものらくがきとして、ごみになっってしまうのかは、利用者を一番近くで見守る家族や支援者にかかっています。私自身も、毎日利用者が絵を見せてくれる機会が多くあるにもかかわらず、なかなか次に生かすことができず、そのままにしてしまっていたことを思い出しました。利用者が自由に作品を作る環境を整え、作品を保存し展示会を開催したり、商品化を考えたり、今話し合いに参加したことで、作品を活かすための手段や方法をより具体的に知ることができました。また、日野春學舎でのアート活動の様々な可能性

を考えることができました。

そして、ボードレス・アートミュージアム「NO—MA」の見学では、アートは、障害の有無などは全く関係なく、作品を通して、さまざまな人々が気軽に関わられるチャンスであることを感じました。日野春學舎をその拠点として、近隣住民の方々や、他の事業所、多くの人が集いお互いを知るきっかけとなるよう、開放的な空間づくりをしていきたいと思いました。

研修当日は台風が接近し、大雨の中での移動でしたが、聞くこと、見ることと全てに感動し、充実した研修となりました。今回感じたこと学んだことを、活かし、地域の皆さんとともに、日野春學舎をつくりあげていきたいと思っています。

春の陽 生活支援員

村瀬 成美



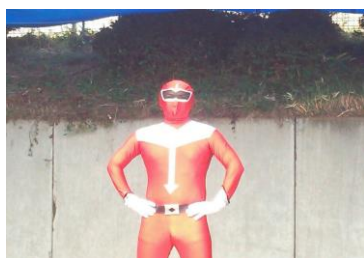
星の里夏祭り

新売り戦隊「里レンジャー」

新売り戦隊里レンジャーショー!!
早くも今年で3回目の舞台となった。
日々の忙しい業務に追われながら7月
中旬に今年の里レンジャープロジェクト
が始動した。

「今年はミュージカル風にやってみよう!!」「出来るわけじゃないですよ」そんな会話が飛び交う中、なかば強引に決定した。「アナ……雨と雪の女王タイトルも決まった。

まずは台本づくり、音響、それぞれの役割を決め、当日に向けて動き始めた。



限られた時間の中の練習になった。
結局、当日まで全体練習は行えず、個々で台詞を前録りし、歌も自主練習で行った。色んなハプニン

グにみまわれたが、なんとか形になった。

不安・緊張。自分たちの気持ちをよそに夏祭りのプログラムが順調に進んでいった。

準備室で円陣を組み、気持ちを整えた。「こんなにちはく!みんな楽しんでるかな?里レンジャーショーが始まるよ」

約20分のショーはあっという間に終わった。

結果的にはグタグタで終わってしまったが、いい味が出たのではないかと個人的には思っている。



薪のPRが出来たのかは疑問だが……。来年もきつと星の里の平和を守りに里レンジャーがやってくるにちがいない。

星の里生活支援員 小澤 佳幸
(ナラレッド)

薪販売のお知らせ

*ナラ(樺)レッド

日持ちもよく、ヤニも少ない

一束…400円

*雑木フルー

火力が強く、値段も安い

一束…200円

*キャンフグリーン

キャンプにはもってこい

一束…180円

*紙まきイエロー

原料は新聞紙。意外と燃える

10個一セット…200円

*玉切りピンク

割れた薪より安く手に入る

一束…150円

絶賛
発売中!

韮崎市民交流センター ニコリ

「NICORRI祭」を終えて



平成二十五年十月から韮崎市民交流センター（愛称ニコリ）の三階に法人の相談支援拠点「ふぁーすとまっぷ」ができました。専門相談（障がい者就業・生活支援センター、地域生活定着支援センター）や地域相談（計画相談事業所）が地域の事業所などと連携しながら相談支援を担当しています。

去る九月七日に、ニコリの三周年を記念して「NICORRI祭」が開催されました。ニコリの一階にはカフェや資料館や公民館、二階には図書館、三階には医院や薬局、デイサービスセンターやリハビリ施設、さらには子育て支援センターがあります。当日は入館団体が知



恵を絞って様々なブースが出展されました。韮崎市のゆるキャラ、「ニーラ」が歓迎する中、多目的施設の特色を活かした、景品がもらえる「ビンゴdeスタンプリー」も行われ大人気でした。

“ふぁーすとまっぷ”では、サロンを開放し「かわいい紙バッグ作り」を出展。参加者と一緒に、お気に入り絵やご家族の写真を題材にして世界で一つのオリジナルバッグを作りました。開始前から家族連れやお友達同士のお客さんがチラホラ集まり、終わってみると何と二六〇名の方（乳幼児もご年配の方まで！）が来所。嬉しい奇跡が起こりました。子どもの頃に帰って？孫へのプレゼントに？夢中で最高傑作を作っている姿がとても印象的でした。私も、子どもたちやパパ・ママ、高齢者とお話をしながら楽しく作成のお手伝いをさせていただきました。普段は悩み事の相談を受けているサロンです。でもまだ知名度も低いかもしれません。でもこうした地域のイベントでサロンを開放し、参加者もスタッフも一緒に喜びを共有し、たくさんの方に「障がい者の相談拠点がここにある」ことを知っていただければと思います。

た。

“ふぁーすとまっぷ（最初の地図）”は「長い人生の旅の途中で、時に道に迷い、時に険しい崖に行く手を阻まれ、そして歩くことを諦め、立ち止まってしまうこともあるけれど、そんな時、再び自分の力で歩き出すことが出来るよう明日へと前進するための道標となり、新たな人生の旅を応援していきたい」という想いを込めて付けられた名前です。これから私自身も地域のニーズを支援につなぐ橋渡し役として、“自分らしく”相談者の想いに寄り添っていききたいと思います。

NICORRI祭に参加された皆さん！ぜひとも駅近の“ふぁーすとまっぷ”を知っていただけますようお願いいたします。

障がい者就業・生活支援センター

陽だまり相談員 渡邊 喜隆



みずがきキャンプ2014

めに就寝。

二日目、「川遊び」「山登り」「森の学校」の三つから自分で選択したものに参加をします。私が参加したのは川遊び！

残念ながら快晴とはいかなかったですが、川遊びへ。クネクネ道を登っていくと、きれいな小川があり深いところは腰の高さまでである川でした。水着に着替え川へ足を入れると・・・「冷たい！」と思わず叫んでしまうほどの冷たさ。それでも足や手などをつけて水遊びを楽しみました。中には頭までダイブ！という強者もいました。昼食には朝にみんなで作ってきた、おにぎりを食べて疲れも吹き飛び、その後は公園でフライングディスクをして楽しみました。

そして、このキャンプのメインイベント「みずがきLIVE」一々八班で各曲の歌の発表と恋するフォーチュンクッキーのダンスミュージックが始まると参加者のテンションも最高潮！歌って踊っての大盛り上がりでした。とっても楽しい思い出の夜でした。三日目、昨日のLIVEで大盛り上がり疲れもなくスツキリと迎えた最終日。この日はキャンプ三日間一緒に過ごしたパートナーさんと一緒に記念品作り。手形や型抜き、色を塗ったり絵を描いたり二人だけのカードを作り交換しました。なんだか楽しかった反面、終わりに近づくにつれ寂しさが、最後

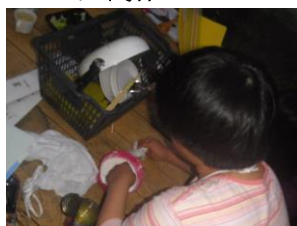
に大盛り上がりした恋するフォーチュンクッキーを歌い、全員で写真を撮ってみずがきキャンプ2014は幕を閉じました。

このキャンプを通し私が感じたことは、普段見ることの出来ない一面を見ることが出来ました。夜の入浴、食事、睡眠を共にすることで日中とは違った利用者の姿を知り、そしてより信頼関係を築くことが出来たと思います。このキャンプをきっかけに仲良くなった利用者や信頼関係を今後の仕事に活かすとても良い経験ができました。

春の陽 生活支援員 伊藤 友裕



川遊び

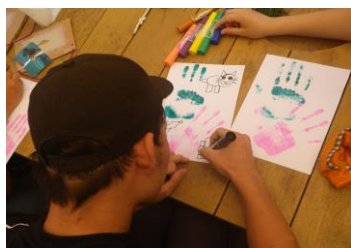


夕食作り

みんなが楽しみにしていたみずがきキャンプ。日が近くなるにつれキャンプの話題でいっぱい。なんだかみんなソワソワ・・・そして当日 八月十五日、みずがきキャンプ初日！期待を胸いっぱいにいざキャンプ場へ！初日は夕食作りから始まります。それぞれのグループでくじ引きにより夕食メニューが違います。カレー、シチュー、ハヤシライス、豚汁の四つのメニューを個性豊かにそれぞれが調理を始めました。それぞれが自分の出来ることをしっかり分担し、食材を洗う、皮をむく、切る等パートナーと一緒に楽しく調理が始まりました。良いにおいがしてくるとみんなのお腹もペコペコです。待ちに待った夕食の時間！「いただきます！」と食べ始めるとあつという間にたいらげて他のグループの夕食もシェアしてもらい味見させてもらっていました。夕食の後は、歌って踊ってのキャンプファイヤーと花火大会。キャンプファイヤーを囲み歌やゲームで盛り上がり、花火をして初日は早



みずがきLIVE



プレゼント作成

日野春學舎

グランドオープン!!

オープニングイベント

10月31日(金)～11月9日(日)

お陰様で日野春學舎(旧日野春小学校)は、この秋、本格的な活用開始、グランドオープンの運びとなりました。

これを記念しまして、様々な協力団体の方々に企画を持ち寄っていただき、オープニングイベントを開催いたします。バラエティーに富んだ盛り沢山の内容となっておりますので、お気軽にお越しいただき、一緒に楽しんでいただきながら、日野春學舎のこれからを一緒に考えていっていただきたいと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

”すべての命が等価に存在するというまなざし”を共有しながら・・・

主な実施協力団体及び企画

下条里づくり研究会 <日野春小学校の歴史写真展 (常設)>

「犬塚勉のまなざし」 <犬塚勉作品展示 (10/3(金)～11/14(金))>

「森のオカリナ樹・音」演奏会とワークショップ (10/31(金))>

ひなたぼっこ <汐見稔幸氏記念講演会 (11/9(日))>

八ヶ岳ふるさと倶楽部

社会福祉法人八ヶ岳名水会

<豆腐祭り(11/8(土))・アート活動作品展「まめてん」(期間中)> 他

問い合わせ先

〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条1368-1

TEL 0551-32-0035

社会福祉法人八ヶ岳名水会 担当 窪川

ありがとうございます！

編集後記

○題字を書いてくださった方
後援会員

牛田 重昭さん

○表紙絵を描いてくださった方

春の陽利用者

宮川 葵さん

高取 里佳さん

小林 淳さん

菜の花利用者

三沢 二郎さん

素敵な字と絵をありがとうございました！

眠っている額縁や画材等はありませんか

日野春學舎構想アート企画部門では、
作品展示・制作に使用する額縁や画材等
を必要としています。お手元で眠ってい
て使わない額縁・画材等お譲り願えれば
ありがたいです。

問い合わせ連絡先

0551-32-0035

もしくは 0551-45-7501

日野春學舎構想アート企画部門

廣瀬（菜の花）

「女取りの泉」は休みました。

今から三十年以上も前に、ハケ岳連峰
の最北端、夢科山に登った時のことを、
良く覚えている。頂上から眺め観る北ア
ルプスや南アルプス、富士山はとても美
しかった。しかし、雲海のかなだに有史
以来といわれた噴煙を上げている木曽
御嶽山はとても恐ろしく、足元の夢科山
も噴火しないか不安に駆られたもので
ある。（この噴火以来、日本には「休火
山」も「死火山」も存在しないことにな
った。）自然とは、かくにも厳しく、登
山とは、やはり「冒険」なのだというこ
とが、今回の遭難でリアリティを持って
思い知らされた。

日野春學舎の庭には、柊（ヒイラギ）
の白くて小さな花が咲いている。葉の棘
の鋭さと白い花の可愛らしさが対照的
である。花言葉は「用心深さ」「先見の
明」「保護」。我々も心して生きて行き
たいものである。

木曽御嶽山の噴火で不幸にしてお亡
くなりになった方々の御冥福を心から
祈ると共に、残されたご家族、負傷され
た方々に謹んでお見舞い申し上げます。

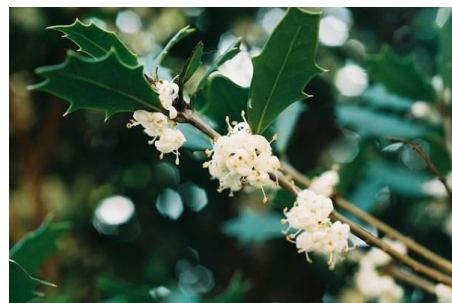
光

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7
TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350
E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

広報委員会スタッフ

廣瀬政光 小池翔 穂坂雄太 浅利美衣（以上菜の花）伏見祐司 相吉謙輔 横森紘子（以上星の
里）中村萌々子 阿部通洋 伊藤友裕 村瀬成美（以上春の陽）清水めぐみ 中村和稔 長田美咲
（以上陽だまり）望月杏沙美（ぼーら）立川瞳（相談支援）
坂本むつみ 清水久美子（以上事務局）



ヒイラギの花